

河原デザイン・アート専門学校
令和3年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和3年9月24日（金）

場所：河原デザイン・アート専門学校

<外部委員>

在校生保護者 村上 忍 様
卒業生 正岡 湧気 様
企業 第一印刷株式会社 制作部課長 正岡 敦 様
企業 株式会社建築資料研究社 日建学院松山校 支店長・事務局長 白井 隆広 様
業界団体 一般社団法人愛媛県建築士事務所協会 理事 宮内 慎 様
漫画家 おち R 様
高校教諭 未来高等学校・河原高等専修学校 教務課長 山本 拓哉 様

<事務局>

校長 白石 隆保
教頭 露口 武志
教務課長 徳永 将規
事務長 奥山 眞史
教務 越智 晃浩
教務 伊藤 龍平
教務 恵原 美幸
就職キャリア支援センター 室長 富久 重信

司会、教務課長 徳永により、開会宣言がなされた。

校長、白石隆保より、開催にあたっての挨拶がなされた

・9月30日で感染対策期が終了する見込みである。学園では、ルールを守ってくれたおかげもあり、クラスターの発生は抑えることが出来ている。国家試験、就職に向けて今後もクラスターを起こさせない。教員は、学校の中に閉じこもりがちで、外部からの意見は貴重です。本日はよろしくお願ひします。

司会、徳永より、外部委員、事務局のメンバーの紹介及び、会議の進行の説明がなされた。

教頭、露口より配布資料を使って学校概要の説明がなされた。

・今年、設立21年目の学校である。デジタルデザイン科63名、グラフィックデザイン科76名、漫画クリエイター科70名、インテリア建築科79名、インテリア建築専攻科12名、インテリア建築研究科20名の総数320名が在籍している。うち5名は休学中である。インテリア建築研究科は2年課程に加えて2年間学ぶことで学士取得が可能である。職業実践専門課程であり、自己点検評価報告書をHPで公開している。この中のA、Bという記号が評価である。配布資料の2ページから4ページの10項目

のうち(3)(4)(5)を重点的に説明する。教育活動の企業連携に関する要素について、各学科から説明する。

デジタルデザイン科 越智より（スクリーンに画像を投影しながら）

・DEEP IN EHIME ということで、新宮村の「紫陽花」を取り上げた動画を作成、納品した。コロナ禍で植物の手入れも十分ではない様子を、あえてそのまま保存することとなった。黒岩フィッシングセンターの依頼については、羽田行の飛行機を、海上に船を出して、真下から撮影して作品にした。就職活動においては、フリーの3D映像投稿サイト「スケッチファブ」を利用した。5月、8月に内定が出るなど、例年よりも早い時期に内定取得できた。業界の人が見ると、どのように作成したか詳しく分かる。内定の決め手を企業にヒアリングしたところ、「スケッチファブ」のために、上長の採用許可が得やすいという事例がある。今後は、作成物の動きに力を入れて行きたい。

グラフィックデザイン科 伊藤より

・利用者に楽しんでもらう目的で松山観光港ターミナル株式会社の依頼を受け、ウッドガラス壁面デザインを実施。6月に、8名が表彰され、TV、新聞の取材も受けた。また県内プロスポーツ4球団の連携事業ロゴマークを作成した。グッズに使用され、販売されている。企業依頼の実績の詳細は、配布資料に表示している。現在は冷凍ギョーザに取り組んでいる。

漫画クリエイター科 恵原より

・愛媛新聞のぶっちゃけ新聞に毎月学生作品が掲載されている。四季録・へんろ道の挿絵を毎月、担当制で作成している。また、松山市の清水地区エリアマップを作成した。LINKは第11弾まで発刊した。2年生を中心に、取材、制作、広告営業まで全て学生の手で実施している。

インテリア建築科 徳永より

・「学び家プロジェクト」は1,2年生75名が8グループに分かれて古民家再生のプレゼンに取り組んだ。玉川町のコミュニティ利用目的の物件を手掛けた。後期は、アート不動産と連携し、建売住宅の企画を体験。ハウスメイトマネジメントの依頼で、希望学生10名が、マンションリノベーションに、コロナのため写真を中心に活用して、取り組んだ。

教頭 露口より学修成果について説明がなされた。

・学修成果の自己評価が低く、本校の課題である。特に休退学率が改善していない。配布資料の休退学状況一覧表のとおりである。表中の年間個別指導計画のとおり実施しており、また今年度からは新たなカウンセラーも採用した。休退学の発生時期は前期終了の9月が多い。理由については、進路変更が最も多い。次に精神的な問題で、カウンセリング等で対処しているが、やはり多い。出席率は95%を目指す。定期的な面談で、小さな変化に気を配っていく。就職の状況については、配布資料のとおりである。詳細を、就職キャリア支援センターから説明させる。

就職キャリア支援センター 富久より

・昨年の就職活動においては、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった。3,4月以降選考は延期、中止が増えた。また、オンライン選考では、意欲が伝わりにくい。県外希望学生が県内に留まるケースが増加した。しかしながら、早期内定に取り組んだ為、11月には殆ど内定を取得した。今年度は昨年度

に比べ改善している。県内希望が変わらず多い。関連企業への就職率が昨年 77%、今期が 66%なので、これが課題となっている。

司会の徳永より

- ・ここから、外部委員のご意見をいただきたい。

在校生保護者 村上 忍 様より

・子供は高校時代、就職希望から急に進学したいと言い出した。進学させて良かった。アルバイトが終わってからも自宅で絵を描いている。観光港のデザインに採用されて感動した。毎日、楽しそうに通学している。先生との面談も喜んでいる。

卒業生 正岡 湧気 様より

・この学校には、映像業界を知らずに入学したが、企業連携で業界知識が得られた。作品を今の会社の社長に見てもらったのが良い経験となっている。受けて良かった授業が沢山あった。在学中に使っていた編集機は、仕事で使っているものとは違う。在学中に複数の編集機を使うことが出来れば、もっと良かったのに、と思う。

第一印刷株式会社 正岡 敦 様より

・中退に関して、細かい分析が出来ている。大事なことだと思う。親は、その道に進んで欲しくて入学させる。退学者を一人でも減らせれば素晴らしい。就職率も高い。企業へのアプローチも新しくて、面白いと思った。当社にグラフィックデザイン科から 3 名入社している。コロナで印刷業界は厳しいが、入社した人に希望を持たせたい。顧客から求められるものが、年々ハードルが高くなってきている。中途採用より、新卒で当社のスタイルを身に付けてくれる人材を求める。実戦に近い感覚や、リアルな厳しさを企業連携で体験して欲しい。コミュニケーション能力が大事なので、そこを教育して欲しい。

株式会社建築資料研究社 白井 隆広 様より

・資格スクールも専門学校と共通しているところがある。学生は、何のために通っているのか、が漠然としているところがある。学生の時に、それを理解させてあげると良い。しかし現実には、やはり社会に出てから気付くことが多い。それをするとどうなるか、しないとどうなるか、という現実を話して、漠然とした人生設計を明確にする。入学したときに刷り込むと良い。遅くなると、駄目。そうすれば、違う業界に行くことも無くなる。偏った考え方を柔軟にしてあげて欲しい。経験者としての身近な成功談、失敗談があれば良い。しんどい時の逃げ道を作ることも少なくなる。

一般社団法人愛媛県建築士事務所協会 宮内 慎 様より

・コロナの影響は大きい。学生がモチベーションを保つのも大変だと思う。今後も、学生のモチベーションを保つ仕組みは重要であろう。県内に建築の大学がないので、デザイン・アートには期待している。卒業生は、与えられた仕事はキチンとするが、自分で考える力がやや弱いので、そこを強化して欲しい。

漫画家 おち R 様より

- ・漫画クリエイター科だけ業界就職率が低いのは何故か？

教頭 露口の回答

・入学者は殆ど、イラスト希望である。就職をゴールとしている専門学校は本校位である。イラストでは安定して生計を維持できないため、まず、職に就いて生活基盤をしっかりとるよう指導している。

漫画家 おち R 様より

・コロナ禍で漫画の需要は高いのだが、漫画で稼ぐためのアプローチはどうしているのか。コロナだからこそマネタイズのチャンスは大きい。作画家は足りておらず、出版社は探している。漫画で稼げるようになるためのチャンス。具体的に実現するプロセスを教えてあげることが大事である。

未来高等学校 山本 拓哉 様より

・生徒は、絵が好きで入学を希望するが、保護者の考え、希望とは違うケースが、ままある。また、デジタルデザインとグラフィックデザインの線引きが、高校教員には分かりにくい。

校長 白石より

・休退学と就職が本校の課題である。自分が18歳、19歳の頃に明確なライフプランがあったかという
と、無かった。休退学は100%、学校の責任である。誰の言うことなら無条件で聞きますか？と学生に
質問すると、「いない。」という子が非常に多い。退学の際、保護者が「本人の決めたことなので」と言
われることが多い。今出来ることをやってからでは？と言っても、そう言われると、どうしようもない。
経営者は、「よく気が付く子が欲しい」と言われる。そうなるように学校も努力していく。

司会 徳永の閉会の宣言で終了した。